

泉州

小・中学生のボランティア体験学習に協力して

泉大津ボランティア連絡会



後ろへ下がってきそうだよ。思うように動かすには、時間がかかるよ



にぎりん棒づくり。うまいものでしょう

中学生が社会人講師の技術や知識、体験等に触れて社会変化に対応し、主体的に生き抜く力を身につけるよう支援する趣旨で、泉大津ボランティア連絡会によるボランティア体験学習が行われました。今回はボランティアに興味を持った2年生20名と3年生19名の選択授業です。私たちは福祉ボランティアが中心なので、日頃の活動状況を説明し、自分で考え、気づいて行動して欲しいという話をしました。体験学習の主な内容は、車イスの使い方やガイドの方法、手話、点字、さわる絵本、介護用品作りの一部など。また、テープ雑誌の原稿を書いて朗読・録音し、ソーステープを作りましたが、これは、利用者に好評でした。



点字ってなかなか力があるよ



中学生のいきいきサロンでの紙芝居。なつかしんでもらえたよ

そして生徒たちは、乳児院と地域の「いきいきサロン」で紙芝居を演じ、ボランティア活動を実体験しました。これからも子どもたちがボランティア体験をする機会や方法について考えていきたいと思っています。

子どもたちに手話をわかりやすく指導

手話サークルこひつじ

私たち手話サークルこひつじは、小・中学校でボランティア体験学習として手話の学習指導を行っています。が、どうすれば子どもたちに興味をもって覚えてもらえるのか、学年によって指導方法を考えねばなりません。例えば、小学校一年生には、身振り手話を表し、クイズ形式で答えてもらっています。皆真剣に考えて元氣よく

答えてくれるので私たちも楽しくなります。手話クラスも覚えるのがとても早く、びっくりしています。三年生以上になると、TVで手話を見て覚えたとか、手話ニュースを見たことがあるよと言ってくれます。中には熱心に質問してくれる子どもたちがいてうれしいです。内容は、指文字、挨拶、自己紹介などですが、指文字の形や向



手話講習に挑戦。歌も歌えるよ

河北

真夏の定例イベント「守口市社協ボラフェス」開催！

7月20日に「守口市社協・ボランティアアフエスティバル」が開催されました。

開催場所は、守口市

社会福祉協議会の事務局が入っている守口市市民会館「さつきホール」もりぐち」の敷地内。今年で7回目を迎えたこのフェスティバルは、ボランティアセンターの啓発・宣伝事業として発足したもので、ボランティアグループの活動PRの場としても、すっかり定着してきた感があります。

当日、会館の駐車場広場では、ボランティアグループが模擬店やバザー、ゲームコーナー、作品展示・販売など、多種多様な催しを展開。日頃の活動の



成果を披露する、にぎやかな交流の場となりました。真夏の開催ということとで模擬店コーナーにはかき氷屋さんや冷たい飲み物屋さんなどが数多く並び、ギリギリと照りつける太陽の下、多くの参加者で賑わっていました。

屋内ロビーには、介護機器の展示・説明のブースも設置。朗読ボランティアグループによる紙芝居や人形劇の上演も行われ、好評を博しました。

また同時に、近隣の府立淀川工業高校吹奏楽部の協賛を得て、吹奏楽コンサートを開催。毎年全国大会で優勝するという素晴らしい実績を持つクラブだけあって、千余席あるホールが早々に満席となる大変な人気でした。つめかけた満員の来場者をも巻き込んで、ボランティアの熱い情熱が燃焼した一日となりました。

中学校でパソコンを使って点字を指導

点字サークルにじ

きが難しいようです。それでも、しばらくすると自分の名前をスムーズに表現できるようになります。学年が上がるにつれて少し恥かしいのか、照れる子どもたちが多いように思われます。

指導するにあたり、手話って何？、聴覚障害者と手話、聴覚障害者の生活の様子などを伝えるのは、とても大切な事だと考えています。また、子どもたちが英語を習うのと同じ様に、手話は目で見る言葉であり、一つの言語として子どもたちが受け止めてくれれば

と思います。

近年、体験学習が増えてきています。この学習をきっかけに、聴覚障害者とのコミュニケーションに興味をもってくれる子どもたちが増えてくれれば、私たちサークルとして、とても嬉しく思いますと同時に、これからは色々と工夫して指導していきたいと考えています。

今後は、できれば「泉大津ろうあ福祉協会」と一緒に指導を進めたいと思っています。

また校長室まで講師を送っていきますが、肩や腕を貸しながら、「段があります」などと注意したり、短い距離ですが無事に導こうとする姿が微笑ましいです。

パソコンでの文章作成にも少しずつ慣れてきて、今は一冊の本の一部分を各自が分担し、授業の終了時には一冊の点訳本として完成させる作業に入っています。授業の日数が少ないので、点字を読む指導まではできなくて非常に残念です。本が完成した時、生徒たちからどんな感想が聞けるのが今から楽しみです。この選択授業を受けたこと、中学生たちが自分以外の他の人にも目を向け、知り、理解しようとする優しさを、少しでも増やしてくれる助けになればこれほどうれしいことはありません。

(正木香代)

市内の中学校から「選択科目の授業としてパソコンを使つての点字指導を約20回行って欲しい」との要請がありました。今までも私たちは何度も指導に行ってきましたが、パソコンを使つての指導は初めてです。でもまだ私たち自身がパソコンに不慣れなので、会の講師の方に講義をお願いしました。講師は視覚障害者です。中学生たちは、まず講師を校長室へ2人1組で迎えに行くことから始めました。20人の生徒たちは、視覚障害者に接するのは初めての体験らしく、最初は問い掛けに黙ってうなづいたり首を横に振ったりで、担当の先生から「声を出して返事しないと先生に伝わらないぞ」と、何度も注意を受けていました。しかし、だんだんと「先生、ここはマス空けるんですか」などと積極的に質問するようになりました。授業が終了すると、

北摂

いばらきの街を一緒に調べてみませんか？

いばらの友 地図つくる隊

誰でもが使いやすい地図を作りたい！と集まった仲間です。

さて、マップを作るのだったら当事者体験をしよう”と第1回体験会を7月15日(土) 午後1時に開きました。中・高・大学生に呼びかけましたが結果はスタッフの体験に。門真市の車イスMAPづくり隊”のビデオを見て、調査の仕方を勉強しました。

・アイマスク体験……2人1組になりました。今日初めて会う人や、ご夫婦も。さあ、相手を信用していますか？

ボランティア講師の説明後、歩きまわす。アイマスクをしている人をほって自分だけで動いている人、「左に曲がります」と言っている人に曲がらせている人、階段のすりの位置を伝えきれなかった人。介助の人を信頼している人、スムーズに動ける事がわかりました。

ゆるやかにカーブしている道は、方向が分からなくなり不安です。手引きをしている間は、曲がる時にメリハリをつけなくちゃと思ったり、状況説明が間に合わなく上り階段が終わったのに足を上げて「ごめん」。的確な言葉の大切さが見えないことの大変さの一端を感じられた時間でした。

・車イス体験……いつもは車イスを押すボランティアをしている人も、自分が乗って自走するのは初体験。基本の

基本をボランティア講師が説明しました。まずエレベーターで降り街へ。歩道の傾斜に、右に左に店に突っ込みそうになり、なかなか前に進まない。さあコンビニで飲み物を買って見ましょう。自動ドアではないので入りにくい。これっていつから押すドアになったのか。目的のジュースの前までは楽に移動。しかしドアを開けるとジュースに届かない。何回か車イスを操作してやっと手に入れました。電動車イスのスタッフは、「店の前に取ってもらおう」って。小さな坂と土の道を通り市民会館前のグラウンドで、ジュースを飲み記念写真を取りました。



・電動車イス……乗っている本人からの説明です。動かし方や、もう1台を使っている分解のようすなど聞きました。



〈スタッフ・隊員募集中！〉
一人の市民として、人として一緒に作る”スタッフと調査隊員を求めています。なんだか自分の考えが大きく広くなり、小さな気持ちがあくましく優しくなったような。これからも変わっていく私を楽しみにしています。皆様は？

私たちのグループは、茨木市ボランティア連絡会ふれあいサロン委員会と茨木市障害者生活支援センター「すてっぷ21」と個人ボランティアで作っているグループです。興味を持たれた方はお気軽にお問い合わせください。

・いばらの友
「茨木福祉マップつくる隊」
・茨木市障害者生活支援センター「すてっぷ21」
(TEL 0726-24-8653)



河南

ささゆりの自生地を守る

河南町ささゆりグループ

私たちは、町内各地域の美化活動や「ケナフ」の自家栽培に加えて、昨年からは日本特産の「ささゆり」自生地の下草刈りに取り組んでいます。

こちらの自生地は、葛城山麓の里山で、700㎡ほどの民有地です。毎年きれいな花を咲かせるためには、春と秋の下草刈りが欠かせません。今年も地主さん(80歳)から要請がありましたので、周辺の清掃と美しい花の観賞を兼ねて、会員20人がお手伝いをしました。

しかし、現地は急斜面で足元も悪く、草刈り機や鎌を持つての作業は大変です。こんな仕事を地主さんがたった一人で毎年やってこられたことを考えると、改めて頭の下がる思いです。

以前は葛城山系の至る所で「ささゆり」が群生していたのですが、環境の変化によって最近ではごく一部に自生が見られるだけです。唯一残っているこの自生地を今後も守り育ててもらうべく、私たちもできる限りの応援をしたいと思います。(会長 谷之木功)



「ザ・かしわら やまとかわ

環境フェア2000」開催！

今年6月4日の日曜日、柏原市と環境フェア実行委員会の主催で「環境フェア2000」が開催され、多くの市民が参加しました。リサイクル活動のフリーマーケットが中心でしたが、柏原市ボランティア連絡会も、「廃油せっけん」や「ゴキブリだんご」「おかからドーナツ」「ペンシルバルーン」の販売を行い大好評を博しました。

「廃油せっけん」と「ゴキブリだんご」の準備は5月中旬から始められ、額に汗をうかべながら大勢のメンバーが懸命に製作しました。「おかからドーナツ」は、当日早朝より調理グループが中心になって作りしました。「ペンシルバルーン」は、製作の実演をしながらの販売です。ちなみに当日の実績は、せっけ



「ペンシルバルーン」の実演販売

泉州

一歩踏み出した連絡会づくり
～気づいた者から考えよう～

泉

「ボランティア連絡会って何するの？」

「自分たちの活動だけでも大変なのに、連絡会をつくって運営しているの？」

「……などが、私たち岸和田市ボランティアセンターに登録しているグループの間では、いま話題になっています。」

岸和田では、早くから各グループで活発なボランティア活動が展開されており、平成10年からは、ボランティアセンターの取り組みやボランティアの活動をより広く、よりわかりやすく知ってもらうことを目的に、ボランティアがつくるボランティアのための情報誌「ボランティアだより岸和田」を発行しています。最初は行事やグループの紹介など、報告のような記事が多かったのですが、何回か編集を重ねていくうち、これではいけないと反省し、今ではできるだけ編集委員が足で稼ぐ記事づくりをモットーにがんばっています。

また、ボランティア同士の交流の場を設け、それぞれの活動にプラスになるように、そして、もっとボランティア活動を市民の方々に知ってもらいたいとの思いから、平成10年12月から偶数月の第3土曜日に「ボランティアサロン」が開催されるようになりました。加えて、年に一度、「ボランティア研修会」がボランティアセンタ―の企画

で開催されています。

これらの事業はボランティアの育成及び活動を効果的に行えるよう、センターの運営に関する諸事項の決定や処理を行っているボランティアセンター運営委員会で審議され、それがボランティアグループ代表者会議に提示されるといった感じです。

本来自分たちがしなければならぬことを社協に任せっきりにしては、何も生まれてこないのではないだろうか、と気づいた者が、泉州ブロックのランティア連絡会に参加したり、高石市ポポロランティア連絡会に見学に向うなど、連絡会の必要性や意義について学習し、この度、準備委員会を発足して一歩踏み出しました。そして、自分たちで考え、ポランティアの発展と向上のために、また、メリット・デメリットが色々あるだろうけれども、連絡会があることにより出会いがあり、横のつながりも広がり、一つのグループでは解決のつかないような問題でも、みんなで作え、いい解決方法を見出せるような組織づくりができればいいのにと思っています。

多くのグループが連絡会づくりに賛同してもらえるように、準備委員一同努力していきたいと思います。

(岸和田市ボランティア連絡会準備委員会
副委員長 大井 順子)

河南

各市町村持ち回り
で開催している河南
ブロックの交流会で
すが、各地をお訪ね
すると、やはりその
地ならではの持ち
味という特徴を知
ることができ、参
考になることが多
々あります。

11月15日(水)、太子町の総合福祉センターに、11市町村と大阪府ボランティアセンターの森所長・門林さんを含めて44名が集いました。

太子町社協の森協局長、同ボラセン運営委員会（ボラ連）の津田委員長からの歓迎の言葉、森所長と河南ブロック担当の中島副会長（東大阪）の挨拶に続いて、各市町村から自己紹介と現況報告という運びでしたが、現況報告を遠慮されるところが多く、やはり簡略で

もベーパー提出を併用すべきかと感じました。地元太子町と東大阪市からは参考資料をたくさんいただきました。

メインテーマは「介護保険制度のグレーゾーンとなる高齢者へのボランティア活動」で、太子町での取り組みが紹介されました。

会場の福祉センターが活動展開の場なのですが、花づくりや音訳・介護用品など各種のボランティアグループも「施設ボランティア」の役割を兼ねていて、定期送迎バスでのお世話や、レクリエーション・調理・手芸などに活躍されていることです。同センタ

人と人とのつながりの大切さを改めて実感

泉州ブロック交流会報告

平成12年9月29日(金)に、泉大津市福祉センターで6市3町から45名が参加して、泉州ブロック交流会を開きました。前半に大阪府ボランティアセンターの森所長に大阪府市町村ボランティア連絡会の意義について話して頂きました。続いて各自の自己紹介と活動報告をしながら情報のやりとりをしました。

後半は大阪国際女子大学の後和先生の講演で、「健康情報の功罪について」を聞きました。

森所長は、「阪神淡路大震災の時の支援活動の経験から、つながりのある人が集まると活動しやすいと思います」

た。年に1回でも2回でもボランティアが顔を合わす場として連絡会があつて交流できれば」と話されました。日常の活動でも人と人とのつながりは大切だと思うので、連絡会の話には一同納得。しかし、情報のやりとりを具体的に話し込むには、時間と工夫が足りませんでした。反省。

私たちが活動するためには、本人は勿論のこと、家族も健康でないと続けられません。講演は、その時々に変わる健康法を面白く解説しながら、自分に見合った健康法を実行することや程良い体重の計算方法の話され、充実した内容でした。

河北

ねんりんピックに
手作り介護用品を出展

門真市ボランティアグループ「若葉会」

ーはステージ付き 多目的ホール・調理場なども広く、喫茶コーナーやくつろぎコーナーもあって、お年寄りにもボランティアにも快適な環境です。そして、その活動はお寺などを借用して地域にも及び、小地域ネットワークに直結しています。

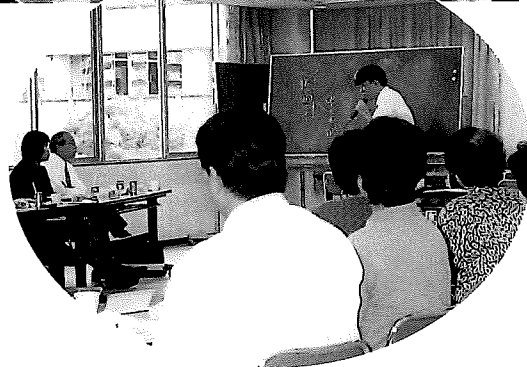
太子町社協の理事・評議員の皆さんは、それぞれが地元では福祉委員であり、町内のキーパーソンなのだとのご

説明に、私などショックを受けましたが、社協がリーダーシップをとれる下地がしっかりと設定されているという感じでした。

介護保険制度が適用されないグレーゾーンの高齢者に対する援助活動のひとつのモデルをしっかりと学んだ交流会になりました。

（河南）ブック広報担当 宮田 信直

(河南) プロック広報担当 宮田 信直



3 身障者とともに舞台芸術創造を！ 3月公演のスタッフ募集

活動内容：身体障害者・児の生活介助、ガイド、接客、電話対応
日時：2001年3月21日(水)～3月25日(日) 10:00～22:00
場所：扇町ミュージアムスクエア (大阪市北区)
沿線：地下鉄谷町線 扇町駅 徒歩10分
募集対象：専門学校・短期大学・大学生、成人(概ね10～50歳代)
*公演当日の食事は用意します
問合せ先：TEL 06-6320-0344 FAX 06-6320-0344
E-MAIL: taihen@japan.email.ne.jp
イメージ/劇団態度 (担当/井上朋子・坂田京子)
申込締切日：3月20日

4 お年寄り好き、集まれ！ 福祉系NPOのデイサービス活動です

活動内容：福祉系NPOによるデイサービスでの要介護等、高齢者との話し相手、車いす介助、調理など
日時：水曜日、土曜日、日曜日で月1回以上、9:00～18:00で3時間以上
場所：特定非営利活動法人ナイト・ケア吹田 (吹田市山手町3-23-23)
沿線：阪急千里線 豊津駅 徒歩7～8分
募集対象：高校生以上、成人(概ね10～60歳代以上)、初心者歓迎
費用：食事は団体で用意(但し、初回のみ自己負担)。交通費自己負担
問合せ先：TEL 06-6337-8112 FAX 06-6337-7020
特定非営利活動法人ナイト・ケア吹田 (担当/末富 幸子)
*高齢者と楽しく過ごせる方を求めています

5 日曜行事のボランティア募集

活動内容：車いす障害者の月1回の日曜行事(外出レクリエーション、料理、交流会、生活座談会)の送迎介護と身辺介護(食事・トイレ)。障害者と交流し、一緒に楽しんで下さい
日時：月1回日曜日(概ね第1日曜日) 10:00～18:00(場合により変動有り)
沿線：JR阪和線 三国ヶ丘駅 徒歩5分、南海高野線 三国ヶ丘駅 徒歩5分
募集対象：専門学校・短期大学・大学生、成人(概ね10～50歳代)、初心者歓迎
費用：参加費 500円(参加手当てあり)
問合せ先：TEL 0722-44-8161 FAX 0722-44-8161
堺・自立をすすめる障害者連絡会 (担当/武田 美奈子)

Vクリッピングボード

ボランティアをやってみたい！
そんなあなたに耳寄りな情報満載



＜ご利用にあたって＞

ボランティア活動へ参加を希望される方は、事前に各団体にお問い合わせの上、条件等を話し合ってから、参加してください。

●このコーナーに記載の情報はホームページでもご覧いただけます。

<http://www.ovn.gr.jp/>

1 野外活動施設でのボランティア！ 子どもにキャンペーンや遊びを

活動内容：スタッフの補助、イベントの企画、野外活動・講座等の参加、宿泊施設を利用する団体のプログラム指導の助言、物品貸出し
日時：春休み、夏休み、土曜・日曜を中心に年間を通じて。日帰り(9:00～16:00)、宿泊(14:00～翌15:00)
場所：大阪市立信太山青少年野外活動センター (和泉市伯方町3-12-86)
沿線：JR阪和線 信太山駅 徒歩20分
募集対象：専門学校・短期大学・大学生、できれば2年以上活動できる方が望ましい
費用：交通費は支給。謝礼あり
問合せ先：TEL 0725-41-2921 FAX 0725-41-2963 (担当/藤原)
申込締切日：定員になり次第締切ります

2 視覚障害者、墨字読書困難な方々に 声でいろいろお手伝いして下さい

活動内容：音訳
日時：毎週金曜日 10:00～12:00
場所：障害者福祉センター(箕面市西小路3-9-2)
沿線：阪急箕面線 箕面駅 徒歩15分
募集対象：成人(概ね10～50歳代)、初心者歓迎
費用：交通費実費
問合せ先：TEL 06-6849-0231 FAX 06-6846-4498
大阪北生協 組合員活動部
*詳細はお気軽にお問合せ下さい



11月14日(火)、豊中市立福祉会館にて北摂ブロック交流会が開催され、7市3町から約30名の参加がありました。豊中市社協ボランティアセンターの概要と豊中市社協ボランティア団体連絡会の活動状況の報告、大阪北生協「ともしびボランティアグループ」と市社協登録ボランティアグループ「豊中アッシー」より活動報告が、また市社協登録ボランティアグループ「さわやか」の指導のもと、歌や体操でリフレッシュしました。

北摂

意義のある
ネットワークづくりを目指して

北摂ブロック交流会報告

豊中市の団体連絡会は、平成4年、情報交換の場やボランティアの啓発を目的に結成され、今ではボランティアフェスティバル、ヒューマンカーニバルの開催、ボランティアグループ紹介パンフレットの作成など、活動に広がりを見せています。また豊中には黄色い体にクリップとした大きな目が愛らしいキャラクター「ボランちゃん」がいます。高齢の方が多いボランティアの中に明るさが生まれた！との事。

このような団体連絡会活動の評価できる点として、「1団体ではできなかった事が実現できた」、「色々な事業を展開する事で、グループ内で目立たない人も活躍する場ができた」と報告がありました。連絡会の必要性については、「社協の提案で」、「自らの必要性を感じて」など、発足の経緯はさまざま。大きな目標をもち、情報交換や横のつながりの必要性を感じて続けてきた連絡会という組織。連絡会の形は様々ですが、「最近、本来の活動以外に仕事が増えてしまった」、「動員が多くて」、「最近マンネリ化してきた」という声も聞えてきます。意義あるネットワークづくりを目指して、この機会に一度ボランティア連絡会を振り返ってみようと感じました(次回は豊能町で開催される予定です)。

ねりんぴっく2000大阪協賛

豊中 ヒューマンカーニバルに8,000人 11/3(祝)千里中央



11月3日、千里中央せんちゅうばる北広場で、昨年結成された企業・団体ボランティアネットワークとよなか(運営委員長・松井淳太郎、以下Vネットとよなか)と豊中市社会福祉協議会(会長・北村要)の主催で催しがありました。当日は天気にも恵まれ、障害者福祉作業所の店や、ふれあいステージとしてセラピードッグのデモンストレーション、車イス社交ダンス、チャリティオークション等、またボランティア体験コーナーやVネットとよなかによるチャリティバザーも行われ、家族連れなど8,000人でにぎわいました。企業とボランティア、そして当事者が手をつなぎ、交流し、福祉を発信した一日でした。



書き損じハガキを 送ってください

大阪南ユネスコ協会では、世界寺子屋運動(僻地農村の人々が無償の教育を受けられるための活動など)に取り組んでいます。皆さんの書き損じハガキが、アジア各国に識字学校を建てたり、その運営費用などに活用されます。書き損じた年賀状や挨拶状、投函しないままの出席通知や返信ハガキなどを左記までお送りください。

541-0048
大阪市中央区瓦町4-3-2 本町UMビル3F
大阪南ユネスコ協会
TEL 06-6221-2935
FAX 06-6202-1626

北 摂

ボランティア国際年記念事業 21世紀の市民活動を創造するために

2001年は日本が提唱し、国連が採択した「ボランティア国際年」です。それに呼応して、高槻市、同市教育委員会、同市社会福祉協議会が共催し、ボランティア連絡協議会協力の研修会が2月3日(土)、市立生涯学習センターで開催されました。

第1部の記念講演は角田禮三さん(大阪工業大学教授)による「ボランティア教育のすすめ」。すべての人が互いに支え合い、励まし合い、いたわり合っている社会を創る原動力。人間としての優しさや他人を思いやることのできるボランティア精神。自然を含め、生きとし生けるものと共に生きる社会を創る。…と、永年にわたる教師生活の体験をもとに、ボランティア教育を通して21世紀を生きる子どもたちに語り継いでいきたいものについて話され、強い信念とその熱い語り口



河 南

福祉レクリエーションなど 河南ブロック交流会を開催

2月16日(金)、ちよつと変わった交流会が行なわれました。担当は大阪狭山市ボランティアグループ連絡会です。福祉センターさやま荘の大広間に10時集合、到着早々参加者は自分の名札を折り紙で作ります。もちろん狭山のスタツフがつきつきで教えてくれます。

午前中は狭山市ボラ連各グループの自己紹介と、各市町村から現状報告があり、昼食休憩時間には手話コーラスとストーリーテリング。

午後は福祉レクリエーションでひと汗かいてから、5つの分科会(自助具って何?・折り紙教室・お手玉遊び・

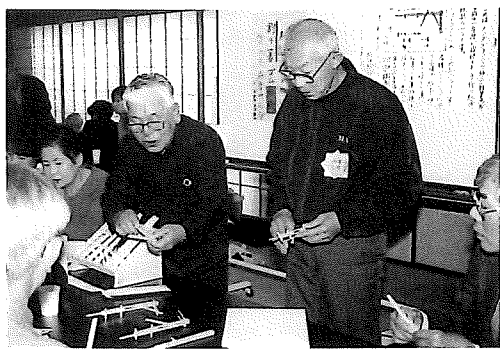


ワーク化に対する関心の高さが伺えました。

障害者の参加も多数見受けられ、子どもから高齢者まで障害の有る無しに関らず、「誰でも・いつでも・どこでもボランティア活動」の理念に基づいた活動の様子が実感でき、なおかつ今後の促進に導いた記念事業でした。

(高槻市 吉田 由巳)

色ごまを作ろう・割り箸鉄砲を作ろう)に分かれて、それぞれリーダーの方々の指導を受けて勉強に励むという趣向でした。



割り箸鉄砲づくりやレクリエーションで楽しいひととき

とめを含め、狭山市ボラ連の皆さんのご準備は大変だったと思います。ありがとうございました。



ボランティア国際年 東大阪で記念事業

河南ブロック交流会が2月16日、大阪狭山市で開催されましたが、その席上、ボランティア国際年についての取り組みが報告されました。八尾市は秋に行事を予定しているとのことでしたが、直近の計画が東大阪市の「記念フォーラム」でした。

2月24日(土)、あいにくの小雨模様でしたが、東大阪市民文化会館に多くの市民が集い、ボランティア国際年の

提唱者である中田武仁さんの講演と活動事例発表の小シンポジウムをメインに、記念フォーラムが開催されました。主催は実行委員会でしたが、たくさんボランティアの方々が近くの道路や会場の入口に立ち、ていねいな案内をされているのが印象的でした。

中田武仁さんは雄弁な方です。カンボジアで殉職されたご子息、厚仁さんへのレクイエムから始まりましたが、



中田武仁さんの記念講演

ボランティア活動を推奨する段階では、日本には思想がないからボランティアという日本語がないのだという厳しい指摘があり、ボランティアの定義として、活動の責任を負う自主性と、他人の痛みがわかる福祉の心とともに、非報酬性をあげられました。そして、「理にかなった経済活動は当然必要であるが、愛犬家は病気の飼犬の治療費と新しい犬の購入費を天秤にかけるだろうか」など、分かりやすい例えで説明されました。

変わりが報告され、ついで、女子大の点訳グループから、年間計画を立てて点訳活動とともに肢体不自由者や聴覚障害者と交流している様子が説明されました。ともに、ボランティア活動のひとつのイメージが参加者に伝わったのでは、と思います。終りに手話グループのリードで、隣のひとと手をつないだりする手話コーラスがあり、予定時間はやや超過しましたが、温かい印象が残ったフォーラムでした。

(河南ブロック広報担当 宮田 信直)



参加者と一緒に手話コーラスを

泉州

新しい時代のスタートラインとして さかいボランティアシンポジウム報告

ボランティア国際年として新しい世紀を迎えた2001年1月23日(火)、堺市社会福祉協議会では、20世紀のボランティアを振り返り、21世紀のボランティア・市民活動を考える「さかいボランティアシンポジウム」を堺市総合福祉会館で開催しました。

第1部の記念講演では、(社福)大阪ボランティア協会岡本第一理事長により、大阪、堺のボランティアの誕生から福祉ボランティア活動の発展の歴史、阪神・淡路大震災を起点としたNPO・市民活動の隆盛など、20世紀の活動の展開の整理から、これからのボ



シンポジウムは350人を超える参加者で大盛況

ランティア、市民活動のあり方、50年後(2051年)の夢、などが語られました。

第2部のシンポジウムでは、大阪市ボランティア情報センターの竹村主幹がコーディネーター役。講演に引き続き岡本理事長がコメント役として参加。シンポジストとして参加した4つの立場の活動者(福祉分野から手芸の特技グループ「ボランティアアグリプてんとう虫」代表の藤井史子氏、地域活動から「高倉台ボランティアアグリプてん」代表の中山滋氏、市民活動分野から「堺観光ボランティア協会」常任理事の塩田精氏、NPO法人から「特定非営利活動法人せかん」代表の松上達史氏)の活動の報告と、それぞれの活動のやりがいや必要性の発表のほか、新世紀を迎えて、これからの活動のあり方について活発な意見が出



行くことが大切だと思います。

閉会後、ふれ愛センター内の見学をしていただき、予定を終了しました。最後になりましたが、田尻町のふれ愛センターの所在地の地図が黒く小さ

かったので場所がはつきりせず、かなり迷ってしまったようで、本当に申し訳ございませんでした。

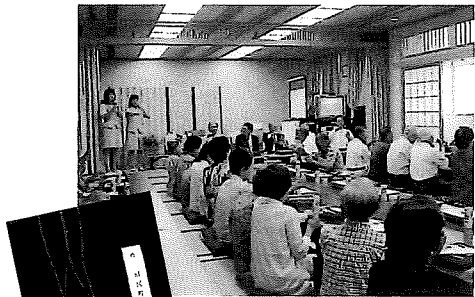
(田尻町ボランティア連絡会 冠 和子)

カラオケ大会やくじ引きも

独居老人昼食会で交流

田尻町では毎年、独居老人昼食会を開催していますが、昨年の催しには約60名のご出席をいただきました。内容と致しましては、

一、保健婦さんによる体操
座ってできる軽い運動を全員でしました。



保健婦さんの指導のもとに体操



プレゼントの
リリアン人形

一、手づくりのリリアン人形を
プレゼント
手さげかばん等につけて下さっているのを見かけますと、とても嬉しく、次なる意欲が湧いてきます。

一、カラオケ大会
皆さん大変お上手で、なつメロから新曲まで、時間いっぱいまで積極的に唄って下さり、私たちとても嬉しかったです。

一、お楽しみくじ引き大会
からくじなしのくじ引き大会をして盛り上がり、和やかなひとときを過ごして大変喜んで頂きました。

このような色々な交流の場を作り、人と人との心の和が広がり、小地域ネットワークの大きな輪ができれば何よりもすばらしいことだと思います。

(田尻町 佐伯 敦子)

されました。

当日は350名を超える参加者があり、草の根活動としてのボランティア活動、グループの役割とそれらをリードすべきNPOの活動について整理され、これからのボランティアや市民活動の方向性を考える場として、盛況の内に終わりました。

堺市社会福祉協議会では、このシン

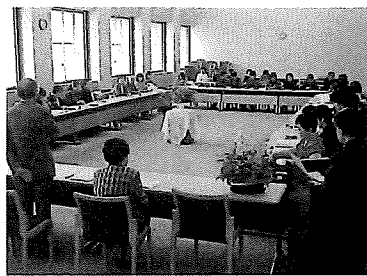
泉州ブロック交流会開催

田尻町ボランティアの集い

2月13日(火)、泉州ブロック交流会が田尻町総合保健福祉センター(ふれ愛センター)で開催され、10市町より大勢のボランティアが参加しました。交流会は、まず出席者の自己紹介から始まり、続いて各市町の活動状況が活発に発表されました。

和泉市では、年1回ボランティアアフェスティバルを開催。12年度は11月23日に行われたそうです。イベントは3つの分野に分け、屋内では手品、紙芝居、踊り、国際交流等、屋外ではスポーツ(子どもたちと一緒に遊ぶ)、それにフリーマーケット80店。6月頃から企画、準備を始めたとのことでした。ボランティアサロンを開いている地区では、手芸等をしている時は割合たくさんの方が集まるのに、手話の勉強に変わった人数が集まらないといった苦労話も。その他、多くのボランティア活動に活躍中の皆さんのお話を伺い、その奮闘ぶりに頭の下がる思いです。

数あるボランティアグループ間の横



交流会では各市町村の活動状況を発表

ポジウムを新しい時代の始まり(スタートライン)として捉え、ボランティア情報センターならびに2つの地域拠点のビューローを基盤に、ボランティア国際年記念事業を含め、今後様々なボランティア啓発事業を予定しています。

(堺市社会福祉協議会 宮崎 浩二)

大阪府市町村ボランティア連絡会の活動も紹介された 『OSAKAジュニアボランティア手帳』改訂版が 3月に発行

3年前に発行された、中・高生のボランティア活動を紹介する『OSAKAジュニアボランティア手帳』の改訂版が、このほど発行されました。編集メンバーの中心は、中・高生の多彩なボランティア活動を紹介する記事ですが、なかで「社会人もがんばっている」というページがあり、大阪府市町村ボランティア連絡会の活動も紹介されています。



社会人も
がんばっている!

若者ならではの行動力と
感性に期待しています

大阪府市町村ボランティア連絡会の皆さん

泉州

岸和田市ボランティア連絡会結成!!

平成13年6月23日(土)に、岸和田市ボランティア連絡会結成総会並びに記念式典を開催する運びとなりました。結成にいたるまで約1年間、準備委員会を発足し、連絡会の意義や必要性について学習するとともに、他市へ見学に伺ったり、プロジェクト交流会に参加するなど経験豊かな先輩方から、アドバイスやお知恵を拝借しながら進めてまいりました。

これまでは、つまずいたり、頭をうちながら苦労して準備をしてきた連絡会ですが、本音で議論を重ねたことで、お互いを知り、ボランティア仲間としてより絆を深めることができたのではないかと感じています。今後は、この連絡会を活気のあるものとし、無理せずできることからはじめていこうという精神で、一歩一歩踏み出していきたいと考えておりますので、より一層の変わらぬご支援ご協力をお願いいたします。

Vサークル自己紹介



●花水木会

「花水木会」は、発足以来13年目を迎えます。最初は少人数での出発でしたが、現在では30数名が会員となり、常時20数名の会員がボランティアに参加できるようにしました。

わが会は老人ホームを中心に訪問させて頂いています。発足当時はいろいろとまどいもあり、どうすればお年寄りの方々に喜んでもらえるのかと会員一同で悩んだものですが、それも今となっては懐かしい思い出です。

回を重ねるにつれて芸も上達し、現在では日本舞踊も取り入れていっそうの充実を図り、これまでに70数回の訪問をさせて頂いています。行く先々で、公演終了後、「必ずまた来てください」と言ってくださるお年寄り、



握手と涙の別れをしてきました。が、その感動を思うと、次の訪問に向けての力が湧いてきます。現在の活動は、岸和田、貝塚、和泉の3市の老人ホームを月2回ほど訪問し、訪問先の方々が歌う小唄に合わせて踊りを披露。暗いニュースの多い今日、少しでも心と心を繋げるボランティア活動をと、会員一同邁進していきたいと思ひます。

河南

お年寄りに音楽の贈り物

●音楽宅急便「さら」

東大阪市の高井田老人センターで、4月23日、「音楽のつどい」があると聞いて訪れました。

相愛大学音楽学部同窓生が作った音楽宅急便「さら」が、同センターで開く4回目の演奏会です。今回の出演は年齢まちまちの女性11人、ピアノ伴奏の二重唱・三重唱やコーラスのほか、フルートやマリンバ、ハンドベルの演奏もあつて華やかです。曲目も春にちなんだものが選ばれていました。

演奏が始まる前に、お年寄りの方々が「は上行こ、楽しみにしとったんや」と誘いあわせる様子や、いろんな曲に合わせて歌っている姿も印象的でし



客席のお年寄りと一緒にリズム体操



た。演奏の中ほどにはリズム体操があつて、お年寄りの緊張もほぐれます。その指導をしてもらったリーダーの小西さんの明るい笑顔も素敵で、1時間あまりの演奏会はあつという間に終わりました。

「楽器の運搬に苦労されることがある」とは社協事務局のお話ですが、音楽を学んだ方々が楽器を持ち込んでの生演奏、これからは皆さんに楽しいひとときを贈り続けることでしょう。

(河南ブロック広報担当 宮田信直)

北摂

南国の情熱的な踊りで、お年寄りとの交流

●ハイビスカスフラチーム

茨木市を拠点とする「ハイビスカスフラチーム」は、平成12年9月に、スポーツクラブのダンス教室で知り合った仲間5人で活動を開始したボランティアサークル。現在は老人ホームやデイサービスセンターなどを中心に活動しています。「利用者の方が私たちのフラダンスをみて涙を流して喜んでくださったことや、車椅子に乗っておられる方が一緒に踊ろうとしてくださったことが印象に残っています。



華やかなステージ衣装でフラダンスを披露

Vサークル自己紹介

●ボランティアあすなる会

私達のグループ「ボランティアあすなる会」は、結成して7年目を迎えます。現在の会員は40名で、その内訳は女性会員27名・男性会員13名の構成で、平均年齢は60歳になります。カラオケ、新舞踊、腹話術、手品等で福祉施設への慰労訪問を行い、施設のお年寄りたちと一緒に笑って、笑顔のひとときをすごせるように、会員一同が一生懸命に頑張っています。

お年寄りの笑顔が何よりの励み

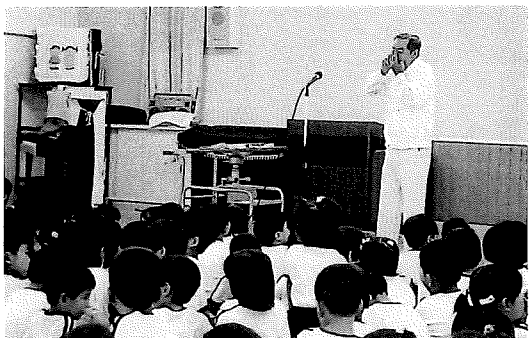


◎チャリティディナーショーを開催
(収益金と参加者の善意の寄付で、車椅子5台を岸和田市に寄贈)

ハーモニカ人生とボランティア

●藤井寺市 田中 勉さん(69歳)

「ハーモニカは私の人生そのもの」と、ハーモニカの話を始めると止まらない：そんなボランティアさんが藤井寺市におられます。

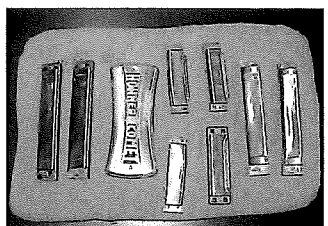


「週に一度病院を訪問し、演奏をお願いします」そんな呼びかけで始まったボランティア活動。最初はただ演奏をするだけでいいと思っていた田中さんでしたが、ある時「聞いてもらっただけでなく、一緒に歌って楽しんでもらおう」と、病院の職員と打ち合わせを繰り返して、「発声する・体を動かす」、リハビリならぬ「遊戯のリハビリ(遊ビリ)」に役買うようになりました。

その甲斐あつてか、退院されたり、転院された患者さんから田中さんの評判を聞き、今では老人会、福祉施設をはじめ、図書館、小学校、保育所、幼稚園などから依頼がボランティアセンターに次々と入るようになりました。

特に、小学校や幼稚園などの依頼が増え始めると、子どもたちに受ける流行の歌を選曲するため子ども番組を見て覚えるようになり、持ち曲は数えられるだけでも200曲以上となりました。

そんな田中さんとハーモニカの付き



田中さん愛用のハーモニカ

合いはかれこれ50数年となります。17歳のとき母親からプレゼントされたのをきっかけに、ほとんど独学で覚えたとのこと。大病を患ったときには、「もう駄目か。ハーモニカとはお別れだなあ」と思ったそうですが、「ハーモニカは、心臓、肺にはいいですよ。これからはがんばってくださいね」と医者から言われ、ますますハーモニカに感謝し続けるようになったとのこと。

ハーモニカをこよなく愛する田中さんは、大小それぞれ10数本のハーモニカを所持していますが、これらのほとんどは20数年愛用しており、故障しても修理は大抵自分でされるといふことですから、頭が下がります。

ハーモニカに限らず、ひとつのことを続けることは容易なことではありませんが、いきいきとした笑顔を拝見し、お話を拝聴すると、「何かをせねば」と、考えさせられます。

(藤井寺市社協 前原)

第一回「大阪わいわいミーティング」開催

太田知事と、ボランティア・NPOが対話集会



後に、大阪ボランティア協会 NPO推進センターの水谷綾さんが、「大阪NPO活性化推進事業を通してのNPOと行政の協働」と題し、大阪府としても初めてとなるこの事業の、今後の課題、また揺籃期にあるNPO側の今後の課題などにも触れながら、インターメディアリー (中間組織) として事業に関わった立場から総括報告を行いました。

続いてマイクはフロアに解放され、参加者はさまざまな活動に取り組む立場から積極的に発言し、太田知事と活発に意見交換。「学校の空き教室を地域のボランティア活動にもっと活用しては…」

「全庁的な支援体制を整えてほしい」などの意見や要望が出され、これらに対して太田知事は、「府民センターの活用なども考えたい」また「こうした本音で語り合える場を今後も持ちたい」などと前向きに発言。終始なごやかなムードで対話集会は終了しました。

その後は、府NPO担当部局の方々と参加者との懇談会。ここでも本音の対話が繰り広げられ、懇談は予定の時間をかなりオーバーして終了。行政とNPOが交流を深め、あらためてパートナーシップの重要性、そのための互いの課題などを語り合い、認識し合った、実りある一日となりました。



大阪府市町村ボランティア連絡会会長・大杉貞子さん



箕面市非営利公益活動促進委員会委員・東一洋さん



大阪ボランティア協会 NPO推進センター・水谷綾さん

昨年は「こんにちは太田です!」というタイトルで開催された、太田房江大阪府知事と府民との対話集会。今年からは「大阪わいわいミーティング」という名称となり、6月7日、マイドーム大阪において「ボランティア・NPOとのよりよいパートナーシップをめざして」をテーマに、大阪で活動する39団体・62名が参加して開催されました。



この日の進行役を務めた、関西国際交流団体協議会の有田典代さん

「わいわいミーティング」としては第一回となるこの日、まず参加者を代表して3団体から活動報告と意見表明があり、大阪府市町村ボランティア連絡会の大杉貞子会長が「地域に根ざしたボランティア活動の推進」について報告。その中で、地域における子育てに果たすボランティアの役割を強調し、活動への行政のさらなる支援を訴えました。続いて箕面市非営利公益活動促進委員会委員の東一洋さんが、「箕面市の非営利活動促進委員会の動きについて」と題して報告。行政とNPOとの“現実的なパートナーシップ”を訴えました。そして最



会場からの意見表明と、それに耳を傾ける太田知事



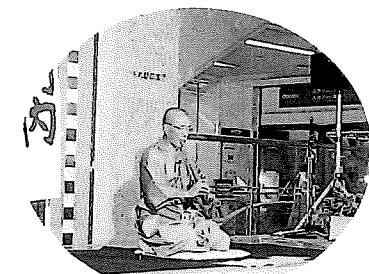
河北

Vサークル自己紹介
シルバードバイザ
ー北河内の会
(SA北河内)

大阪府シルバードバイザイザー養成講座の修了生27名が、平成10年3月16日に会を設立。「自主・自発・自由」を活動のモットーに、北河内7市(守口、門真、寝屋川、枚方、交野、四條畷、大東)から、豊富な知識と経験、そして技能を携えて集まり、以来、意欲的な活動を展開しています。平均年齢68歳のシニア集団ですが、歌体操やギター・尺八の演奏、マジック、落語、詩吟、舞踊、歌謡曲、歌謡曲、コーラス、どじょうすくいなど、ユニークでバラエティー豊富なボランティアプログラムが特徴です。



ロゴの入ったおそろいのエプロンがユニホーム



日本の伝統音楽「尺八」の演奏は外国人にも好評



北河内7市の特別養護老人ホームや各種老人保健施設、独居老人施設、病院、学校への訪問をはじめ、子供会、PTA主催の催し、公共機関主催のイベントなどにも参加。最近では国際交流分野でも新たな活動を展開し、日本文化を紹介し、異文化交流による相互理解を深めるなど、大いに成果をあげています。このように、「福祉ボランティア活

Vサークル自己紹介

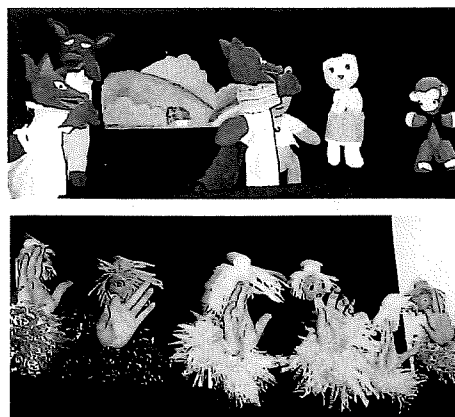
●人形劇サークルかざぐるま

私たちのサークルは、21年前に守口おやこ劇場のサークルの一つとしてスタートしました。おやこ劇場では、会費を積み立てて年に4回くらいプロの劇団の人形劇やお芝居を観ますが、「地域の子どもたちにもっとたくさん人形劇を観せてあげたい」という思いで、観るだけでなく自分たちでも演じてみたい」という思いとでスタートしました。発足当時は右も左もわからず、人形劇の盛んな枚方市の人形劇講座を無理やり受けさせていただいたり、プロの劇団の方に指導に来ていただいたりしました。メンバーが入れ替わりながらも、常に5、6人が活動。毎週金曜日に公民館を借りて、制作と練習をしています。公演は



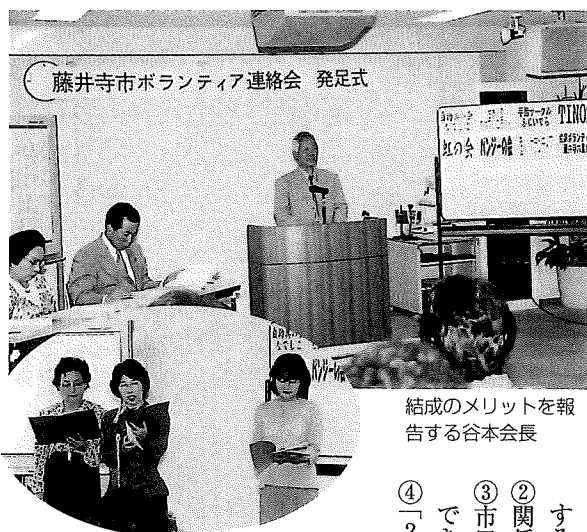
謝しております。

動」「伝承玩具作りによる世代間交流活動」「外国人とのふれあいによる国際交流活動」の三本柱をコンセプトとして、意欲的に活動しています。最近ますます活動が活発化し、平均活動頻度は4日に一度、年間では90回を超えています。また、同じ日に2か所で活動があるため、メンバーが分散して対応することもしばしばです。こういった活動に必要な資材(旗、幕、のぼり、歌詞カードなど)や小道具類、玩具作りの材料や衣装、オーデ



イオ機器などは、全て自作または自主調達。企画運営や演出、司会・進行も、もちろんメンバーたちで考え、実行しています。21世紀に突入し、福祉・教育・国際協調の重要性がますます叫ばれるなか、私たちSA北河内の活動は非常に意義深いものであるとの認識を深め、今後も一層の広がりを目指して、明るく楽しくボランティア活動に取り組んでいきたいと考えています。

市内の幼稚園や保育所、小学校、公民館などで行います。このサークルがこれまで続けることができたのは、「地域の子供たちに観てあげたい」という最初の目標もさることながら、演じている自分達自身も楽しかったからだと思えます。公民館の方をはじめお世話になっているたくさんの方々には、日々心から感謝しております。



藤井寺市ボランティア連絡会 発足式

結成のメリットを報告する谷本会長

朗読の実演をするボランティアグループ「ひびき」

朗読の実演をするボランティアグループ「ひびき」など、今までは月に1度役員会を開き、「ボランティア交流会」や「研修会」など、今まで社協主体だった事業を展開しています。

後半は各市町村より自己紹介と近況報告を行い、多数の意見・質問が出され、



今回盛り上げて頂きましたこと、本当にありがとうございます。次回は、市さんとお聞きしています。楽しみにしています。

委員長 藤原 法子

河南

ボランティアのまちづくりをめざして

5月23日(水)、府内で34番目となる「藤井寺市ボランティア連絡会」が産声を上げました。

発足式には、藤井寺市長および大阪府市町村ボランティア連絡会会長はじめ、来賓、関係者、ボランティア約70名が参加。市内ボランティアグループがそれぞれ活動の報告、朗読やおはなしの実演、また点字器材、自助具や人形劇の用具など、日頃使用している道具類を展示するなどして他のボランティアたちと交流を深め、連絡会発足の意義を再確認しました。

ボランティア連絡会は、市内におけるボランティア活動の効果的かつ円滑な



人形劇の人形たち。この日はちょっとひと休み

推進を図ることを目的とするものです。が、発足にいたるまで、各ボランティアグループ代表者は他市ボランティア連絡会の活動状況や、ボランティア連絡会を結成する上でのようなメリットがあるかなど、藤井寺市の連絡会のあり方について入念に調査・検討を進めてきました。

①ボランティアグループが互いに協力すること、充実した活動ができる
②関係機関に対して発言力が強くなる
③市民啓発の際、より効果的なPRができる
④「2001年はボランティア国際年」であることから発足する

河北

障害者ワーキングエリア見学と
キャンプ場での交流会

梅雨の真っ直中の6月21日、交野市で河北ブロックの交流会が行われました。この日は障害者ワーキングエリアの見学のあと、キャンプ場でお昼をたべながらの交流会となりました。

進するための施設や工場が集まっている、参加者20人が2班に分かれて見学しました。車椅子の方が多く働いておられるバリアフリーの工場、改良された機械や道具類に「知らない世界を見てもう一度とてても有意義だった」「体の不自由な人でも、人間の知恵と意欲で不可能を可能にしていけるもの」ということがよくわかった」との嬉しい感想をいただきました。

高校生が高齢者施設で
体験ボランティア

今年も、夏休みを利用してたくさんの方が参加した「夏のボランティア体験プログラム」。枚方市にある「高齢者介護サービスセンター・里仁館」には4人の高校生が参加し、お年寄りとの交流しました。里仁館は通所・入居の両面から高齢者の介護を行っている支援施設で、数年前から体験ボランティアを受け入れています。



取材に伺った日は、入居者のクラブ活動の日。同センターでは絵画・お茶・手芸など、曜日ごとにいろいろなクラブ活動が行われています

ろいろなクラブ活動が行われています。が、この日は書道教室が行われ、体験ボランティアの高校生たちは福祉専門学校の実習生とともに参加しました。上半身が不自由な方のために半紙や墨を用意したり、一生懸命筆を動かすお年寄りに「がんばってくださいね」と声をかけたりと始めはやや緊張気味だった



北摂

78名の参加で北摂ブロック交流会

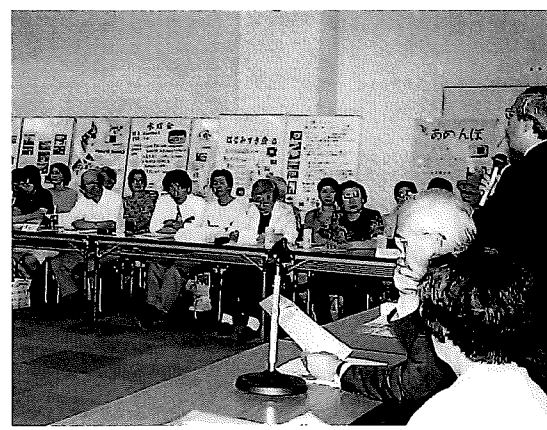
6月19日、吹田市市民会館にて、大阪府ボランティア・市民活動センターの森所長、吹田市社協の美濃迎事務局長を迎え、

北摂交流会が開催されました。「21世紀は、社会と市民の声を聞かなくては行政施策はできません。府のボランティアセンターがボランティア・市民活動センターと名称変更したのも、そんな意識から。今後とも交流を深めてボランティアの広がりを」と森所長から挨拶がありました。

続く第一部の交流会では、「ボランティアの情報交換、研修、他市との交流をさらに実施したい」(茨木市)、「NPO法人格を取得したグループもあり、連絡会も転換期を迎えている」



(吹田市)などの意見表明や、「10年の周年事業としてバスツアーを行った」(摂津市)、「ボランティアのハンドブックを来年2月に発刊予定」などの報告が各代表者からなされました。



た高校生たちも、少しずつ笑顔でお年寄りに接していけるように。同センターの森永美枝総主任は、「ボランティアは、まず体験してみることが大切。その経験を通じて、ひとりでも多くの人が私たちの仕事に興味

や関心を持つてくれば嬉しいですね。また、高齢者介護に対する重いイメージを払拭し、人と人とが交流することの温かさや喜びを感じてもらえたら、なお嬉しいですね」と語ってくださいました。

泉州

ボランティアサロンの活性化！
市民センターへの発展を目指して!!

平成13年8月24日(金)、岬町健康ふれあいセンター・ピアッツァ5において、6市3町と大阪府ボランティア・市民活動センター・森所長、社協職員の参加のもと泉州ブロック交流会を開催しました。

また「ボランティアサロンの活性化」「ボランティアセンターの充実」など、それぞれの市町村が抱えている課題などを話し合い、意義のある交流会になりました。

大阪府市町村ボラ連会長の大杉貞子さん、森所長、岬社協副会長の谷口孝、岬町ボランティア運営委員長の挨拶に続いて、森所長より大阪府ボランティア・市民活動センターの近況報告をして頂き、その中で「社協とNPOとの関わりで、市民活動の拠点としてボランティアセンターが今後、市民活動センターへと発展することが重要である」と話され、また「ボランティアセンターはボランティアが主人公である」という原点を再認識いたしました。

暑い日中、大阪最南までようこそお出向き頂きありがとうございます。会場に同席頂いた方お一人おひとりに感想をと思いますが、いかがだったでしょうか。発表されたことで、まだまだ時間があれば、と思われた方がいらしたのでは。

森所長のボランティア・市民活動センターの名称変更のお話もよく理解できましたし、各ボランティアさんに色々教えて頂いたこともありましたが、またお会いした時はよろしくお願ひ致します。

次回泉州ブロック当番は貝塚市さんとお聞きしています。楽しみにしています。

後半は各市町村より自己紹介と近況報告を行い、多数の意見・質問が出され、

今回盛り上げて頂きましたこと、本当にありがとうございます。次回は、市さんとお聞きしています。楽しみにしています。